



「仮想広工大」ようこそ

院生の奥川さんネット上にキャンパス再現

新型コロナウイルスの影響でキャンパスに通えない学生たちのため、広島工業大学院1年の奥川航大さんの心が、インターネット上に同大五日市キャンパス（広島市佐伯区）を再現した「バーチャル（仮想）広工大」を作った。1年生を招待し、学内の施設を紹介するオンラインツアーを企画。今後、受験生向けに同大が開くオンラインのオープンキャンパスなどへの活用も模索している。

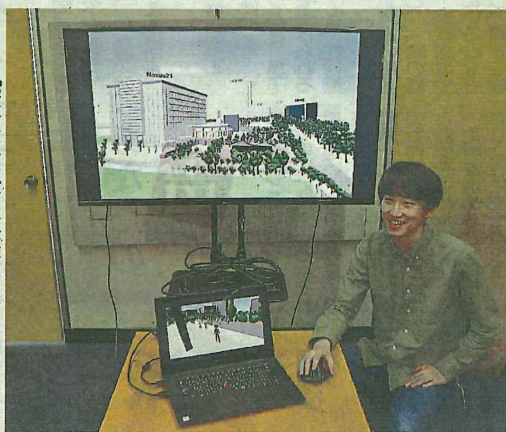
（木原由維）

通えぬ1年生招きツアー



#輪になれ広島

建築デザインを研究している奥川さんは、地図や航空写真、大学の資料写真を参考に3Dのバーチャル広工大を設計。講義棟や図書館、食堂、売店などを忠実に仕上げた。会員制交流サイト（SNS）の「二つクラスター」を活用し、学内外の人に公開している。クラスターはスマートフォンやパソコンからパート



「学生にキャンパスを体験してほしい」とバーチャル広工大を紹介する奥川さん

ル空間に集い、音声やチャットで交流できる。奥川さんは今月中旬、同大建築デザイン学科の1年生を招いたツアーを実施した。自ら案内役になって学内のスポットを紹介。約20人が「キャンパス」見学を疑似体験した。

同大では感染防止のため4月の入学式などが中止になり、現在も授業は原則オンライン。奥川さんは「1年生は新生活の中で孤独感を抱えている」と心配し、休校中の5月にバーチャル広工大を作った。7月にあるオンラインのオープンキャンパスでも活用してもらおうと、大学関係者に働き

掛けている。バーチャル広工大はクラスター内のワールド一覽で検索し、アカウントを作れば利用できる。奥川さんは「後輩たちが大学に通える日が楽しみになってくれるよう応援したい」と話している。